

天才！？ハル魔術使の可なりさん

初級冒険者来  
ヨリ

ギルドの依頼でダンジョンに挑んだら

変態仕様にカラダを

改造されちゃいました

ノベル版

ほろ！えっちらいふ



- Holo ecchi live

私の名前はシオン、王立ハーバード魔法学院の卒業生よ。  
今日は天才のシオンにふさわしい調査依頼が来たの。とある  
初級者向けの洞窟に中級魔物が出たみたい。

私は中級魔物はソロでも狩れる自信があるから余裕よ。そ  
れに報酬も破格だったわ。なんと金貨 10 枚！ゴブリン退  
治 30 体が銀貨 30 枚と考えるとすごい大金だわ！洞窟に  
入ると中はかなり薄暗かったけど私の得意魔法のライトを  
唱えたから視界は良好ね。

？？？（早速カモが来たようだな…ククッ胸は小さいが顔  
は好み、上物だぜ。）

こいつが今回の標的であるスライム？見たこと無いわね。  
出沒した中級の魔物はコボルド系と聞いていたけどステー  
タスを見るとこいつも中級はあるわ。

シオン「ふふん！私はこの国最強の魔導師と言われている  
王立ハーバードの卒業生よ！あなたなんて瞬殺してあげる  
んだから！」

私は杖を構えて詠唱を開始した。これは炎属性攻撃魔法フ  
レイムストーム！魔力消費量が多いけど広範囲高威力の攻  
撃魔法よ！これならいかに中級とはいえ無事では済まない  
はず。

イビルスライム「キューううう…」シュポッ

シオン「やっぱり一撃ね！でもなんで中級が普通に出てくるのよ…ここ初心者向けって書いてあったわよね……なんか嫌な予感するんだけど……」

実はこのダンジョンの外看板は偽装されていた。名称は淫魔の穴、低階層から中級魔物がスポンしてくるのだ。つまりここは魔術師が単騎で乗り込めるようなダンジョンではなく、前衛の戦士、罫探知の盗賊、後衛の魔術師などチームメンバーが必須なのだ。しかし経験の浅いシオンは低階層に中級が出現する異変に気が付いていない。

？？？（フッフ、ここは俺が女を騙して調教する為のダンジョンなんだぜ。金に目がくらんだのか？卑しい女だぜ。オマエが金になるとも知らずにな）

-フロア2F-

シオン「ふう…やっと依頼にあったフロアまで来たわね。そろそろ疲れてきたし一度休憩にしようかな」

そう言うと近くの壁に背を付けて座った。するとどこからともなく花のようないい香りがしてくる。

そう思った時には既に手遅れシオンはカラダの動きが鈍くなっていくことに気づいた

シオン（んーおかしいなあ？眠い……）ウトッ……zzZZ

あっという間にシオンは意識を失ってしまう。

？？？「どうかな性魔術、昏睡香の威力は？って聞いてないか。じゃあちょっと弄らせて貰おうか」

俺の名前はスタイン、女を罠にかけて変態貴族に売り飛ばすことを生業としている盗賊だ。ギルドに偽の依頼を出し、騙された若い女を誘い装備を剥がし変態好みの雌に調教している。

盗賊スタイン「乳首結構やわらけえじゃん、さては結構イジってるなこいつ。徹底的にマゾ雌調教して頭空っぽの雌肉にしてやるよ」

シオン「んっ…♡うう」zzZZ

盗賊スタイン「おっと、起きる前に装備は全部剥いちまわないとな」

そう言うとアイテムバッグにシオンの冒険用の服一式と下着などを収納していく 慣れた手付きで、数分後には全ての衣服を取り除き生まれたままの姿にしたシオンのカラダになった。そしてアジトに連れて行かれたのであった。

## - 盗賊のアジト - 調教 1 日目

盗賊スタイン「魔術！！パラライズッ！」

手慣れた様子で筋肉を麻痺させ固定する魔術を掛けた。シオンの手で自分の足を支えさせ、挿入しやすいように開脚させたポーズで性器がよく見える。

盗賊スタイン「受注者は…シオンっていう名前か、まあ名前なんてどーでも良いけど売り飛ばすときのタグに必要だからな。しっかりメモっときましょうねえ〜♪」

シオン「う…ん？」

シオンは目を覚まし自分の状況を理解する。自分が裸でカラダの自由が効かないこと。目の前の盗賊風の男がニタニタとカラダを舐め回すように見ていること。

シオン（体の自由が効かない？なんの魔術よ）

1日目



■ステータス■

≫状態：行動阻害（パラライズ）

≫装備：グローブ、髪飾り

行動阻害（パラライズ）：対象の筋肉を硬直させる魔術。どんな姿勢にも固定が可能である。

盗賊スタイン「お、お目覚めかいお嬢さん？今から貫通式やるとこなんだ気に入って貰えるかなって」

そう言うといきなりシオンのおまんこにチンポを突っ込こんだ。ブチュッ♡ニュルルルウ～♡ ジュプッヌチャググチィ！

シオン「痛いっ！何すんじゃボケ！死ねっ！死ね！」

盗賊スタイン「おっと□が悪いお嬢さんだな、でもまだ半分しか入ってないんだよなあ……あとちょっと頑張ろうぜえ？」

そう言う腰をゆっくりと前に突き出していく  
ズリュ♡ニュプッヌチャググチョォ！シオンは少し痛みを感じながら抵抗できない悔しさで歯を食いしばっている。

盗賊スタイン「今回の依頼は確か…中級コボルドの討伐だったか？残念だが依頼は失敗に終わりそうだなシオン」

シオン「なんであんたが知って……あっ！まさかギルドに偽の依頼を！」

盗賊スタイン「気づくの遅すぎ ww お前みたいな貧相な雌なんてどうでもいいけどよ、依頼失敗って事は金か？いや今のオマエは何も持っていないんだからカラダで支払わねえといけねえよなあ？ほら穴締めて射精促せザコ雌」

ズチュ♡パンッ！バチュン！バチュッ！ピストン運動が激しくなり膣内が蹂躪される。

シオン「あっ♡あんっ♡あんた天才魔術師のシオンにこんな事して許されると思ってんの？ギルド依頼をこんなことに悪用したらあっ♡死罪なんだからね！」

スタインは動きを止めニヤついた顔でこちらを見下ろしてくる その表情を見てシオンの顔が強ばる。

盗賊スタイン「今まで何十人もハメてきたけど捕まってねえぞ、デタラメ言うなオナホっ！」

そういうとスタインは再び激しいストロークを始めた。パンッ！パァンッ！ズリュ！パンッ！バチュン！パンッ！パンッ！激しく肉同士がぶつかり合う音が響く。先ほどより奥深くまで突き刺さる快感にシオンは声を押し殺している。

シオン「てかなにそれ？ちっさ（笑）シオン全然気持ちよく無いんですけど？」

舐められてはいけないと、虚勢を張りなんとか挑発を試みる。しかしスタインは調教を生業とするプロフェッショナルだ、シオンが感じているかどうかなど簡単に見極められるのだ。さらに盗賊スタインはシオンの弱点を探るべく、角度を変え様々な方法で責めていく。

盗賊スタイン「イキってられるのも今のうちだよシオンちゃん、とっておきの性拷問魔術で徹底的に調教して、アクメするだけのオブジェにしてやるよ」

男の目は嗜虐心に満ち溢れていた。シオンはそれに恐怖を覚えつつも…

シオン「やれるもんならやってみなさいよこの短小」

と悪態をつく。そんなことを言っているとスタインはま腰を突き出しポルチオを圧迫したまま、シオンのクリトリスに指を当てる。クチュクチュッ クリュッ♡ 突然の快感に身体が跳ね上がる。シオンは必死に堪えているがスタインの愛撫はさらに激しさを増していく。クリトリスを優しく揉みしだきながら、シオンの耳元に唇を近づけるとこう言った。

「ほーらシオンの弱いところを見つけちゃったよ。ここを重点的に弄れば……すぐにイッちまうよな？」

スタインは人差し指と親指を使い、シオンのクリトリスを挟むと左右に捻り始めた。同時にピストンを再開するズリッ グデュッ グデュッ リズミカルに敏感な部分が刺激されて絶頂の予兆を感じる

シオン「ふうー♡くうう♡」（なにこれ！？やばいやばいっ！もうイきそっ♡だめ、耐えなきゃ）

シオンは懸命に我慢しているが、それも時間の問題である。シオンのおまんこからは大量の本気汁が流れ出してしまっている。

盗賊スタイン「へええ～意外と我慢強いんだな。でも無駄だよ俺様は女の弱いところをピンポイントでイジメて何度もイカせるプロだからねえ。」

そう言うときアクメの限界を超えそうになった瞬間思いっきりクリトリス潰した。プシャーーー♡♡♡

シオン「ひぎいっ♡イグうううっ！！！！イってる！イってるから止めろこのっ！ああああああ♡」

ビクンビクンっ！プシャー———♡♡♡

シオン「はーっ♡ はーっ♡」

思い切り潮を吹きながら痙攣する。見ず知らずの男にイカされ潮吹きまでしてしまったという事実を受け入れられないシオンだったが更なる追撃が彼女を襲う。

盗賊スタイン「そう言えば短小とか言ってくれたなあ、クソマゾの淫乱メスガキの癖に。これはお仕置きが必要だよなあ？ちょうど子宮降りてきてるし、合意ってことね？」

そう言うとシオンの子宮口に亀頭をスリスリして子宮をさらに下ろしていく。そしてシオンをイジめるためにさらなる性魔術を自らのチンポに掛けた。

盗賊スタイン「性魔術！！ペニス膨張ッ」

ズブブッ メリィ！ブチュン！グジュッ♡ヌプッ♡メリメリィ！

シオン「お♡おお♡お"お"♡ッ！！！」

あまりの大きさにシオンの腹はチンポの形が外からわかるくらいにボコォっと膨れ上がってしまう。



あーん♡♡♡

だーん♡♡♡  
だーん♡♡♡  
だーん♡♡♡

ん♡

ん♡

ん

ん♡

膣内で魔法を掛けたのでそのまま隙間なく埋め尽くされ子宮口にまでチンポがピトッとくっついている。まだチンポは入りきっておらずシオンの子宮の奥深くまで侵入しようとしているのだ。

盗賊スタイン「シオンちゃんみたなクソガキ壊せると言う  
といつもよりチンポがでかくなってる気がするよ。許して  
くださいって言えよマゾ雌」

シオン「言うわけ無いでしょ、このクッソキモ豚野郎」

盗賊スタイン「お前のような世間知らずのお子様に教えて  
あげるよ。俺はナマイキな雌が、アへ顔晒して懇願しながら  
イキ狂ってるところを見るのが好きなんだよ」

というと、シオンの膣奥に向かってチンポを突き立てた。  
グチュンッ！グリグリ♡グリュンッ♡♡♡

シオン「あがぁぁっ♡あゝぁぁぁっ♡」（ちんぽっ♡おっ  
もお♡子宮押しつぶされてりゅ…♡）

あまりの大きさに膣奥まで一気に犯される快感に悶絶する。

「良い音したなあ！グチュって言ったぞ（笑）」